

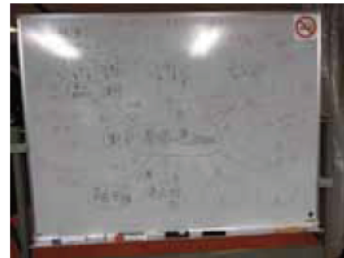
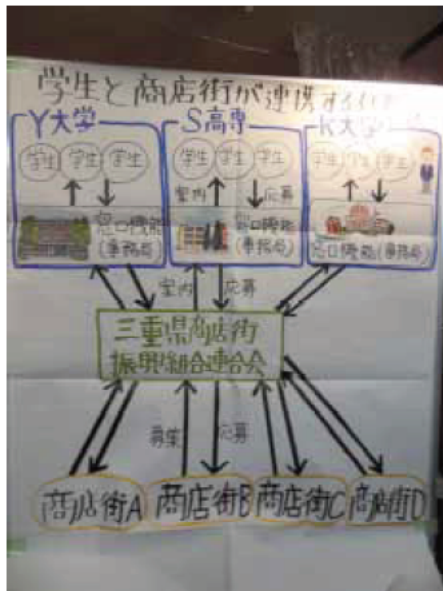
商店街サポーター支援事業との連携

1 「商店街サポーター支援事業」との連携について

「商店街サポーター支援事業」とは、三重県商店街振興組合連合会が主催の事業で、にぎわいのある魅力的なまちづくりのために、商店街関係者と学生等が話し合う意見交流の場を設け、商店街等を支援する持続可能な仕組みづくりを検討するものです。

平成 24 年度は、四日市市の商店街をモデル地区として、仕組みづくり検討委員会と下部組織の学生部会を設置し、商店街側、学生側のニーズ、課題等を取りまとめました。

学生部会には、四日市大学、鈴鹿工業高等専門学校、皇學館大学の学生が参加し、計 3 回開催されました。



学生部会は、四日市市の諏訪商店街の中にある、文化の諏訪駅にあつまり、意見交換をしました！

2 学生部会の役割について

学生部会は、商店街等の関係者で構成される仕組みづくり検討委員会の下部組織として、学生同士が学生側のニーズ把握や具体的な提案等を議論する場です。

学生部会の役割としては、大きく以下の 3 点があります。

- ① 商店街等を支援する仕組みづくりに向けて、持続可能で、学生側にもメリットがある仕組みとするため、学生の立場から、現状や課題、ニーズ等を伝える。
- ② 仕組みづくりに向けて、協力してもらえる学生を確保するために、学生に対してどのように PR すべきかについて、具体的な方法を検討する。
- ③ 商店街関係者等と連携し、モデル事業の企画運営等を行う。

3 学生部会での議論について

第1回学生部会【平成24年10月17日（水）開催】

第1回学生部会では、「学生の現状」、「学生の地域活動に対するニーズ」、「学生への情報提供の在り方」について意見交換しました。

学生生活や学生の地域活動の現状について、学生からの主な意見としては、地域活動への参加する時間的な制約やボランティア情報の不足、参加のきっかけや動機付けが必要であることなどの意見がありました。

また、学生の地域活動への参加を促進するためには、学生にとってのメリットが必要であるとの意見があったことから、どのようなことにメリットを感じるかについて話し合いました。

次に、学生が地域活動にどんなことを期待するかについて意見交換を行いました。

学生からは、「自分たちが主体となって工夫や発想を生かしながら取り組む活動」を求める声や、「地域の方や他校の生徒等との交流を通して学生生活が充実できるような参加の在り方が望ましい」との意見が出されました。

第2回学生部会【平成24年11月7日（水）開催】

第2回学生部会では、「仕組みづくり検討委員会から提案された仕組み案」、「学生への情報提供の内容（コンテンツ）」について意見交換しました。

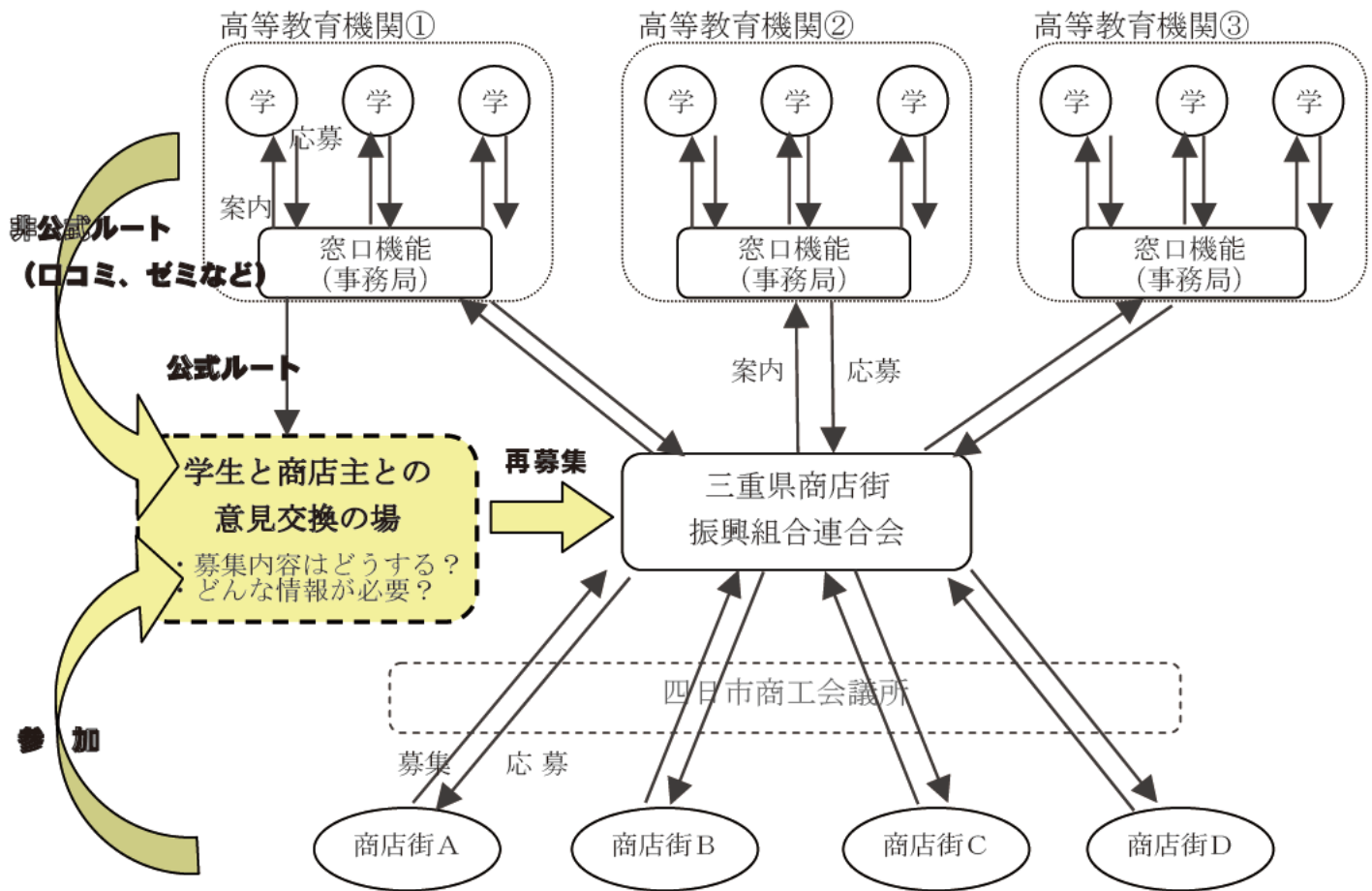
学生からの主な意見としては、

- ・ 広く周知が必要な場合は、各大学事務局などから一斉メールなどで配信してもらうことになるかもしれないが、なかなかそれだけでは、募集などに人が集まらないのではないかと。学生間などの口コミが一番確実。
- ・ 学生間のネットワークは、各学校とも形は違っても既にあるので、そこにつなげていく方法を考えてはどうか。（各校のリーダーとなる学生のネットワークなど）
- ・ 提案してもらった仕組みは、各校への縦への情報提供なので、例えば三重県在住だけど、県外の大学へ通っている学生には、情報が広がらないというデメリットがある。
- ・ 現行案の仕組みは、三重県商店街振興組合連合会と大学事務局が間に入っているため、学生と地域の方との関係性が希薄に感じる。参加者を募集する仕組みとは別に、地域毎に学生と地域の方が関わる必要があるのではないかと。

第3回学生部会【平成24年12月19日（水）開催】

第3回学生部会では、「第3回仕組みづくり検討委員会です承された仕組み案」、「商店街の現状と学生との具体的な連携」について意見交換しました。

- ・ 学生に興味を持ってもらえる募集案内を発信することが重要。取組毎に前捌きとして「学生にとって魅力的な内容となっているか」「必要な情報が案内に盛り込まれているか」等を学生と商店主で意見交換する場が必要ではないかと。



4 今後の展開について

それぞれ3回開催した仕組みづくり検討委員会及び学生部会において、商店街サポーターの仕組み（組織）案についてとりまとめたことから、今後は、実際にこの仕組みがうまく機能するかを、実際のイベントの企画運営を通して検証していくことが提案され、4月のエキサイトバザールについて、学生部会のメンバーを中心に具体的な検討を商店街関係者と一緒に議論しながら進めていくこととなりました。